

第3回 市立芦別病院のあり方検討委員会 会議記録

と き 令和元年6月13日（木）午後5時
ところ 市立芦別病院 2階講義室

○出席者

・委員

（学識経験者）

佐古名寄市立大学学長、西村北海学園大学経済学部地域経済学科教授

（芦別市医師会から推薦された者）

藤嶋芦別市医師会会長、野口芦別市医師会理事

（市長が指名する者）

川邊芦別慈恵園施設長、竹原芦別市国民健康保険運営協議会会長

・オブザーバー

稲場芦別市副市長、津幡芦別市総務部長、畠山芦別市市民福祉部長、

細川市立芦別病院院長、赤間市立芦別病院看護部長

○会議録

事務部長

皆さまお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。若干、定刻より早いのですが、委員の皆様がお集まりですので、ただ今から「第3回 市立芦別病院のあり方検討委員会」を開催させていただきたいと思っております。

はじめに、佐古委員長からご挨拶をいただきます。

佐古委員長

前回の委員会の内容を確認しますと、まず、病床削減、一般の60床を3階の西・東病棟に、60床の中には12床の地域包括ケア病床、4階西には療養病床として40床の合計100床が承認されました。これにより交付税が、約5千万円増収となる。ただ、もう少し、病床数のすり合わせを話し合う必要を感じました。この病院で100床が、本当に適切なのか？将来の人口動態や住民の受療動向、医療スタッフの充実度との兼ね合いですが、もう少し最終的な病床数の精査が必要との印象を持っていますが、取りあえず、これは認められた。

もう一つの経営形態の見直しについては、継続審議となっており、本日もいくつか資料がありますので継続して審議をお願いしたいと思います。

佐古委員長

それでは、3の報告事項、(1)「市民アンケートの結果について」説明願います。

事務課長

(資料1-1、1-2及び当日配付資料に基づき説明)

佐古委員長

はい、どうもありがとうございました。予想の範囲内のアンケート結果かなと感じていますが、皆さん方はいかがでしょう？

どなたか、ご発言ありませんか？この種のアンケートというと、なるべく色々な科があってほしいというのが、だいたい通常なんですけど、それにしましても医療体制ですとか施設の充実、これはやはり市民からの要望として、突出して多いことから、市側もきちんとお応えしていただければと思います。

職員アンケートでは、病床数の縮小という指摘がありました。これは、一般市民からもありましたが、その辺はやはり、事情或いは日本全体の医療のあり方の実情が、良く分かっているのかなとの印象です。それと、待ち時間の予約については、病院側で改善出来る範囲であると思いますので、検討いただければと思います。実際に予約制としていても、時間通りにいかない現実はありますが、そのような要望がありますので、検討いただければと思います。

どなたか、ご意見ありませんか？

委員

病院のアンケート結果では、やはり必要な診療体制の整備が必要で、砂川や滝川で入院して帰って来て、芦別で診療が受けられる今のシステムが安心できるし、良いのかなと思っています。皆さん、色々書いていますけど、地元で病院がなくて困るのは私たち市民であります。診てもらえるところがあり、受診して、施設に帰ってくることも出来ますし、実際、先日、市外の病院から真っ直ぐ、私どもの施設に帰ってこられず、市立芦別病院で、一旦お世話になってから私どもの施設に戻った例があるので、芦別へ帰ってこられるのはありがたく思っています。

市立病院にどの科があれば良いのか？どのぐらいの規模であれば病院をやっているのか？そのようなことを絞って話が出来れば良いと思っています、アンケート調査もされているので、結果も参考しながら議論すると見えてくるのかな？と思っています。

佐古委員長

一つ今の話であるのは、現在、整形外科については、出張の先生で外来の多くの患者さんを診てもらっています。委員は、入院も必要と思っておられますか？

委員

入院と言うか、現在は入院の出来ない状態なので、市外である程度入院をして芦別に帰って来る。整形に限らず、内科においても同様に。

佐古委員長

手術を伴うような整形外科は、色々な状況から無理だと思いますので、現在の外来を週3回維持する。受療動向を見ますと、主は滝川・砂川ですが、旭川・札幌などの整形も受診されている。色々な理由があつてのことと思いますが、何とか週3回で自分のスケジュールに合わせて受診できれば良いのかと思っています。

アンケートの中に外科の希望が3番目にありますが、この外科は、どのような外科を希望されているのか？手術も希望となれば、麻酔医も必要で手術室の看護師さんも配置するのか？手術件数も考えると、ある一定の処置を伴うものは、集約する方向で考えざるを得ない。実際の話ですが、ある地元の病院で手術するとなった時に、地元の病院ではなく、札幌の病院を選ぶケースもある。これが、実態であり、色々な理由があつて、その科だけでなく、周辺の医療施設の充実度等を考えての判断・傾向ですので、今回のアンケート結果も参考にしますが、絶対一定の病床数が必要、救急が必要、外来は、特に、高齢者の通院事情を考え、外来機能を今までよりも少し充実させることが、アンケートを見てこの病院で出来そうなことかと思っています。

何か、ご意見、ございませんか？

委員

佐古委員長は、このアンケートを想定に近いような結果とおっしゃいましたが、もう少し現状維持や充実させてほしいなどの意見が多いのかと想像していましたが、意外と言ったら失礼ですが、非常に現実的で、市民の方も理解されているのかと思いましたが、ある程度は受け入れざるを得ないと考えられており、職員の方も民営化、民間委託との声もありましたので、そうなんだなあと感じました。

佐古委員長

住民説明会で、なかなか鋭い市民意見もあり、正に、応えにくいところも出ており、現状をかなり分かっているとの印象であります。

民間委託は、前例としてありますが、その時の職員は、公務員として残るか、委託先に行くか選択がありまして、半分以上は公務員で残ることを希望。その場合、市が膨大な人件費を抱えなければならない。実際、その様な現実的な問題もありますので、例えば、委託したから負担が0になる訳ではないことは、皆さん認識されていただきたいと思います。

では、次に、(2)「平成30年度決算の状況について」説明をお願いします。

事務課長

(資料2に基づき説明)

佐古委員長

今の決算についての説明に対し、ご意見・質問はございませんか？

委 員

資金不足比率は、改善したということですか？

事務課長

改善したと言うよりは、決算見込みを立てる場合は、収益は、ある程度現実的な数字を見込みますが、費用については、全てを決算見込みで減額する訳にはいきませんので、その部分の執行残の積み重ねと、一番大きな要因としては、一時借入金を予定より借りなくて済んだことで流動負債の額が予定より少なくなったことにより、全体の資金不足比率が下がったものであります。

委 員

当初の見込みよりも、かなり良くなった？

事務課長

当初の見込みに比べると、かなり良くなっています。ただ、それは、経営が大きく良くなった訳ではなく、ある程度経費節減等のやりくりをしながらの結果によるものであります。

佐古委員長

昨年度よりも改善しているということですね。

事務課長

改善しています。平成29年度は、地財法上の資金不足比率が14.19%ですから若干良くなっています。

佐古委員長

その要因は？

事務課長

基準内繰入金については、逆に4,100万円程減った中で、収益の落ち込みが少なく、費用の面で、看護師の退職等で人件費が落ちたことが大きなところと、全体的な経費削減等の積み重ねであります。

委 員

人件費比率は、どれくらいですか？

事務課長

50%を大きく超えています。後程、数字を報告します。

(一般的には、民間病院を含め50%以下が望ましいが、公立の場合、公務員給与であることと、職員の平均年齢が高い。)

佐古委員長

50%はちょっと厳しい。民間病院は可能だと思うが、道内の自治体病院は50%を超えていますし、外部委託をすることでも変わってきます。道内の市立病院でもアウトソーシングで人件費比率が40何%のところもありますが、その分、外部委託が20%を超えている、トータルで人件費分がどうなのかということです。ですから、人件費比率は目安ですけど、厳密には人件費比率だけの数字を見るのではなく、アウトソーシングが増えていますのでトータルで考える必要がある。

委 員

私どもの施設でも、人件費比率を出していますが、比率が高まってきていますし、注目する指標だと思っています。

佐古委員長

病院でも機能によって異なり、慢性期病院だと70%から80%にどうしてもなってしまうが、そのかわり材料費比率はかなり低い。一方、急性期病院では材料費比率は一定の量があって、人件費比率は60%を切るというのが一般的かなと思います。

事務課長

この資料の決算状況の給与費と医業収益を割り返すと70.4%で、実際のところ決算統計上で使う数字は違うので、比率が変わります。

佐古委員長

今回の30年度の決算で、2,100万円の赤字です。基準外繰入金が2億9,000万円あるので、合わせると3億1,000万円の収入不足です。

市は、今年度から基準外繰入金を1億円にするとのことなので、その差額を病院で収益を上げるか、費用を削減しなければならない。(或いは両方を)

前回の病床削減で、約5,000万円の増収を見込んでいますので、それを差し引いた残り、1億6千万円の改善を図るために検討を進めていかなければなりません。

委 員

医業収支そのものは、特に悪くなくですとか、そういうことはなくて、収入も減っているけれども費用も減っているので、これくらいの形で交付税などが入れば、資金不足比率もこの程度で、基準を越えない程度では収まるんだけど、来年度以降、その交付税を抑えるということになると、一気に悪化する可能性があるという、その様な理解でいいのですか？

事務課長

実際のところで、今までは決算見込みをベースとして当初予算を組み、説明をしていましたが、今度は決算が出ましたので、令和元年度の見通しを立てましたところ、当初の健全化法上の資金不足比率は24.6%でしたが、決算値に置き換えると20.5%まで下がることになりまして、平成31年度の始まりが変わることとなります。以前、当初予算作成時に不足する額は6,500万円程と説明しましたが、それを決算数値に置き換えると750万円程に変わることになりました。しかし、平成31年度（令和元年度）の収支が、予算通りとなればどの前提がありますので、収益が予定よりも減ったとすれば、当然厳しくなります。

なお、先程の人件費比率ですが、決算統計上の数値で67.8%となっております。

（これは、給与が高いのではなく、医業収益が少ないため、割り返すと率が高くなってしまっている。）

佐古委員長

報告事項の(3)「その他」は、よろしいですね？

次に、4協議事項(1)「病床規模の見直しについて」事務局の説明をお願いします。

事務課長

本日は、別に資料を用意しておりませんが、病床機能の見直しにつきましては、前回の第2回検討委員会に事務局案として、現在の一般病床98床を60床に同じく療養病床31床を40床にそれぞれ変更し、45床の休床を含めた合計129床を100床にして29床削減することと、現在の4階の一般病棟を3階に移し、その跡に5階の療養病床を移すなど、一般病棟では患者さん一人当たりの面積を増やすことによる診療報酬の加算の増収や個室が増えることによる室料差額収益の増収を図りたいと提案したところ、病床削減については了承されたものの、変更後の病床運用については、改めて内部で協議が必要とされていたところであります。

これを受けまして、明日から開会されます6月定例市議会において病床数の変更について、条例改正案を提出することとしておりますが、当面の病床運用は現行の体制のままとし、今後予定される総務省派遣の経営アドバイザーからの助言なども参考に、再度、病棟再編について検討を進め、次回以降の委員会において、改めて提案したいと考えておりますので、よろしくご審議いただきますようお願いいたします。

佐古委員長

これについて、いかがでしょうか？

細川オブザーバーは、いかがでしょうか？

細川オブザーバー

よろしいと思います。

佐古委員長

今後の稼働状況を見て、全部稼働させるか？経緯を見守りたいと思います。それと、冒頭申し上げました通り、最終的に将来を見越してどの程度にするかは、もう少し慎重に、色々なシミュレーションをして決めるべきと考えますので、その際に、また、ご意見を伺いたいと思います。

これについて、委員の皆さんはよろしいですか？（なしとの声あり）そういうことでよろしくをお願いします。

次に(2)「経営形態の見直しについて」事務局から説明をお願いします。

事務課長

(当日配付資料に基づき説明)

佐古委員長

このことにつきまして、何かございませんか？

委 員

私は芦別市の行財政改革委員会にも関わっておりますので、道市町村課の公営企業健全化の担当課長とお話しする中で、道としても、今の芦別市の財政状況を踏まえて、少しイニシアチブを取って議論していきたいとのことで市町村課だけではなく、道地域医療課や北海道財務局も加わった中で、議論することとなりました。特に、何かの結論を出す場ではなく意見交換を行った次第であります。

いろんな議論がなされましたが、私が感じたのは、やはり病院のあり方検討をするに当たって、時間軸と空間軸を感じ、時間軸というのは、病床数をどうするのか？今やるべきことと、もう少し時間をかけて検討してやっていくもの2、3年なのか？5年或いは10年なのか？そういった時間軸の中でどうしていくのかを考える必要がある。空間軸は、芦別市として、或いは市立病院として、やれることと、芦別市、市立病院だけでは限界があるかと思っておりますので、広域的な連携ですとか今日紹介のあった事例ですとか、相手のあることでもありますが、病院のあり方検討の場合には、視野には入って来ると思います。

少し、積極的な発信ということも考えた方が良いのかなというようなことを思った次第です。

広域的な話の中では、先ほどの奈良県の話も10年程かかっていますので、いくらでも時間があるという話でもありませんし、丁寧にやっていくことが大事であるとの感想を持ちました。

佐古委員長

どうもありがとうございました。他にいかがでしょうか？

この委員会の最初の会議で私がお話ししましたが、何のために経営形態を見直すの

か？確かに、この10年ぐらいに、全道の21の市立病院のうち15病院が全部適用になりました。でも、それが、著しく経営に寄与した例は知りません。

病院がイニシアチブを取れることになるのは間違いなく、今は、中々病院側の思うようなことが出来ていないということについては改善すると思いますが、やはり、病院自身が、何をしたいのか？一部適用ではどのような障害があるのか？といったことを明確にすることが必要であると思ったところです。

今、時間軸と空間軸とおっしゃいました。時間軸につきましては、確かに2025年に向けて、それぞれの2次医療圏の病床数と機能分化を地域医療構想の中で進めています。それと関係して、空間軸は芦別だけで何かをしようとしても出来ません。それは、折角、地域医療構想会議が2次医療圏ごとにありますので、そこで、芦別としての明確なスタンスというか意思表示をされて、そこで、今後どのような機能を持っていくかを並行して考えていくことだと思います。

委 員

先程からのお話を聞いていて、あり方検討委員会で、いつまでに何をすると考えた時に、アンケートも色々と紹介されましたが、芦別の市立病院は、市民から何を求められているか？どのように利用されているか？も考えてくことが大事であると思いました。病床については100床に削減し経過を見るとされました。今後、人口は減っていくと予想されていますので、必要に迫られてというよりは、人口減に伴って病院も対応を考えていかなければならないことを改めて考えさせられたところで、ですから、その様な考え方でやっていかなければならないと、思って聞いていました。

佐古委員長

先程の話に戻りますが、北海道が一番心配しているのが、財政面から病院を持たなくなる。病院を止めてしまう。これが、一番困る。国は、全国民が同じように医療を受ける権利を持っている。それぞれの地方に委託されているので、北海道としては、芦別にも医療を残さなければならない。そのためにも地域医療構想があります。住民は、色々な機能を残したいとの思いは十分わかりますが、最悪を避ける考え方も必要であると思います。そのためには、病院が自ら収支をある程度持続可能なものにするためには、どうしなければならないのか？を内部でも十分検討していく必要があると思います。私達は、プランを作るのが役目ではなく、市民の皆さんの意見などを反映して、プラン策定に助言していくのが、この検討委員会の役割だと思います。

委 員

市立病院の実態が、説明をお聞きして理解してきましたけれども、芦別に限らず空知全体が高齢化して人口もどんどん減少していく中で、そのスピードが速いですね。いろいろな手立てをしていますが、もう3分の1ぐらいに人口も減っています。市立病院もそのような流れで病床を100床にと、さらに、需要が無くなれば減少も考え

なければならぬ時代が来たのだと強く印象に残りました。

委員

市民の希望を全部取り入れることは無理だとしても、最低限維持していく医療を考えていった方がいいと思います。

佐古委員長

ですから、市民の要望があつて、一方では収支があつて、その接点がどの辺か？というのが、これからの作業かなと思いました。

委員

先ず、実践というか、シミュレーションというか、経営のことを考えながらやっていかなければいけないと思います。

佐古委員長

それでは、よろしいですか？経営形態については、次回までにある程度事務局で案を出していただけるということですので、皆さんも今までの議論を踏まえて、ご検討いただければと思います。

では、(3)「その他」で委員の皆さんから？なければ事務局から？

次に、5「その他」で、次回の第4回委員会の開催日程について、事務局からお願いいたします。

事務課長

次第に添付してあります「委員会スケジュール」をご覧いただきたいのですが、このスケジュールでは、第4回の開催時期を8月としておりますけれども、今後予定されております「総務省派遣の経営アドバイザー」の派遣時期と調整しながら、日程を決めさせていただきたいと思っておりますことから、本日の委員会では日程を決めずに、後日、改めて日程調整をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

佐古委員長

今回は、経営アドバイザーの経過を踏まえ、アドバイスをいただいてから第4回を開催することとし、一応、8月中には予定していますが、日程は後日調整させていただくということですので、よろしくお願いいたします。

では、以上を持ちまして第3回のあり方検討委員会を終了いたします。どうもありがとうございました。

(午後6時20分終了)